

河川の維持管理に伴う希少猛禽類の保全対策について

一人と生物との共生を目指す河川空間管理

オジロワシ



中村 文哉¹⁾, 倉本 洋平¹⁾, 濱口 耕平¹⁾
滝沢 太浩²⁾, 笹森 健太²⁾

1) 北海道開発局札幌開発建設部 江別河川事務所
2) 株式会社エコテック 環境技術部



1. はじめに

北海道内でこれまでに実施されてきた河川事業における猛禽類に対する保全措置は、工事影響の低減や代替巢の整備などが多く、工事完了後や供用後も継続的に猛禽類を保全するための取組みが少ない。このため、河川管理施設等の維持・修繕において、人と生物との共生に配慮し、長期的に猛禽類を保全することが重要である。

本発表では、河川堤防の管理における猛禽類保全の取組みとして、北海道の石狩川流域において、希少猛禽類（オジロワシ）の営巣環境への配慮方法について検討を行った事例を紹介する。

2. 検討経緯

江別河川事務所では、堤防除草・点検の実施時期と希少猛禽類（オジロワシ）の繁殖時期が重なることから、平成26年度より雛の巣立ち時期まで営巣木から半径1km内を立入り制限区域とし、オジロワシの営巣環境を保全してきた。

しかし、融雪から出水期前までに除草を終え、速やかに堤防点検を実施する必要があるため、オジロワシに対する除草作業の馴化により、立入り制限区域の緩和及び立入り時期の前倒しが可能か検証を行った。

3. 馴化のポイントと検証結果

馴化に当たっては、①軽い負荷から段階的に実施すること、②生身の人間の姿を極力見せないこと、③注意を一点に集中させること、④監視人を配置し警戒行動をリアルタイムで把握することに留意した。

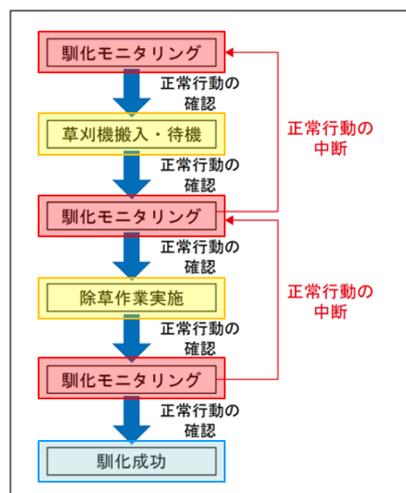
この結果、営巣木から半径1km以内であっても除草作業を警戒させない、巣外育雛期における馴化に成功し、除草時期を1ヶ月程度前倒しすることが可能となった。

◆馴化実施工程

馴化対策	工種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
馴化①（人による作業）	測量・杭打ち作業		当該年度は実施せず					
	車両侵入防止柵の設置		設置済み					
馴化②（ダミー作業：草刈機仮置き等）	事前作業							
馴化③（除草作業）	除草作業							
繁殖確認調査（各月1回を基本）								
異常行動確認調査								
除草適期								
オジロワシ繁殖ステージ		抱卵期	巣内育雛期		巣外育雛期・幼鳥独立期			
			繁殖期		非繁殖期			

■：作業実施日

◆馴化フロー



4. 今後の展望

これまで営巣地から半径1km範囲の規制を行っていたが、本検証の巣外育雛期における幼鳥が概ね半径300m程度で警戒行動を起こしたため、今後は保全（立入り制限）エリアを半径500mまで緩和することを検討する予定である。